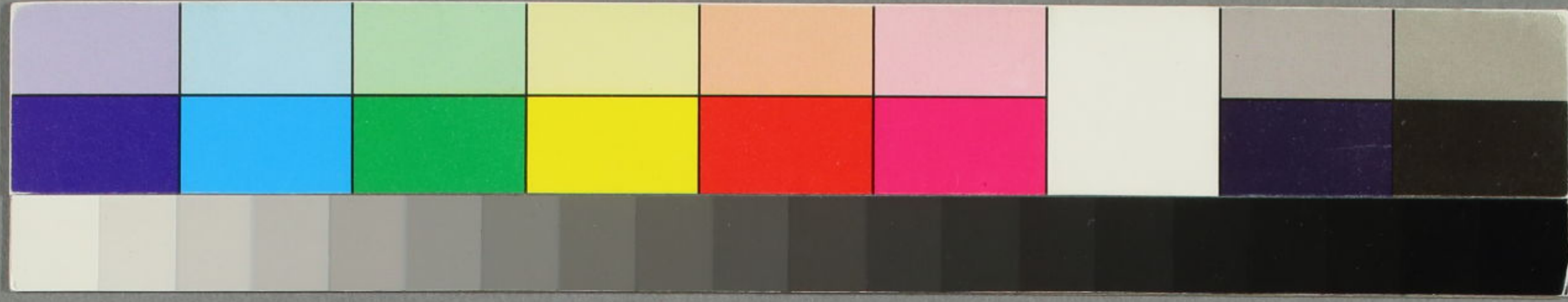


誂諧手挑灯

下

^ 5
1498
2





うん庵の

上下作

あみ

山鶴

負知



休真



1498
2止





桑之屋
貞籠

橋治画
對



三
桑之屋
貞籠

鳥之屋

鳥之屋

四季

貞富

雪や藤相の雪を尋ねて

蝶と花は一転涼風を

常緑木と秋と嘆きり雪の紫

かきと高き松の木の松

三物

貞逸

星洲一止、輝小紅葉揚

湖をさうが戸、新雪

月のある一帯は、花持ち

のとき、は落葉の夕夕と
文佐



素

雲雀

負宜

裾野乃

之

今



後句切字の事

けやそくよめりありせり
さぞ多りあわこそふふ
いづいさいざう色もれ
ららめらんせんせん
あまいまいいさうこやど
かがりりせじほこわり之
早ぬむぬむし知事へ
現るれ白し走来事れ
二字切

おこ人の娘恨ん風色
三字切

い母寝て何事り星の中

手紙丁

三辰切 三辰切
女帯男乃衣裳之法此尾

大也

自余未之聞法者左を眼鏡

と也

去々々色有(平)との如きもの

去妙切

意由一雷や障子と法法らん

付那切字をくして切く句等

師傳ふくはす原の法

切字 あしきり 分

ふのぬ 吸うぬ 色法 吸い ち

おねなく あしきり ち あしきり

此類ひ あしきり 切字に あしきり と

あしきり

哉乃神

苗代のもにひう形男ト 貞雨

めさくと木奥の城る為 向州 芳雨

まらぬ 米沢 廟の台も異さ 米沢 一鱗

長崎ハ唐一船の落 全 全

ん舎と目陰ハ 全 出る異さ 全 其山

白布 全 赤 全 跡乃異さ 全 藤里

志 全 富士 全 止 全 暑 全 其木

引水と返 全 田 全 野 全 東山

為 全 音 全 雨 全 芦 全 津 全 野 全

多川の今頃は数人色鹿川延山

全

兼好尔家、ま似も暑川釣浦

上州七日市

二ツ三ツ流へ碑多敷り下り、更幽

全小幡

一群小菊にわりの時る川九阜

全

峰の樹は丹色の有葉川杉雪

全前橋

新しむ土路は川ハ橋ふ扇風

全

凡そく目ふと流くの落葉川松露

全芝

落葉にけな葉と埋む深山川芦洲

全伊勢寄

流し、いぬ又濃うらむる川専秀

全

料さ急度川の勢も川回葉

全波川

森猫の耳もと様法眼り川盛山

全伊香保

色く赤塔と喚る川也形川時交

全高崎

池ま川鳴乃川へ春ま川胡統

全

志く菊の影は秋水の匂り川亭松

全

あらしも入蕨乃成る柳川好時

全

と川流清川もも川料川山螢

全武蔵水竹

板川の曲々形川澄可南山色

全安戸

あさ火神尋出さ敷杖き川呂竹

全福山

母道の足見川肉斗暑う川好竹

全

暎うく蓮乃葉未葉極全源月

江未結海新宿町へらりて流木全喜水改川全芳月

白雨亦半分ふあ勢流可那曉山

を痛く飛全風亦意地全は機全小全蘭思

四五具全ははり思ふ全はくふ全柳糸

及尚も始上手邑まると好む瓢全う糸全泉志

洲も流の四間一を全曇全は全九良全了全管竹

迷子全は全表全り全叱全は全葉全山全字全小全

何れも始長根り全る乃全舎全り全り全一全桐

入相黒熊亦始全り全付全る全時全ふ全り全霍昌

内く小庭の勢半貫く登麻全川全龍

涼全り陸乃舟全へ船全が全入全可水

色全さ全ぞ全う全ハ全氣全表全斗全は全時全分全山笑

舞日野印地の全指全り全好全り全や全零全り全茅元

今野上意全り全精全吟全休全る全際全や全泰山

む天田は全身全て全南全へ全香全の全目全の全横全小全芦全睡

激吉井潑全れ全う全く全る全あ全る全は全清全小全松南

一葉全は全紅全紫全撥全り全那全分全也全岸松

顔全極全く全情全へ全入全る全為全る全小全川全松川

吹全度全身全入全目全を全転全落全る全水全保水

一氣の遊のこまぬや水法全と全 桐直
 雲雲舟に曲る勢 津全 孤遊
 陽を也 練うく 烟 酒 佛 珊木上大塚
 糸舟也 秋の幸乃 乃 聞所八幡山 船ト
 船也 燈の目く 法 秋全 文竹全
 一八也 二八月ま 家 ぶすく 竹 櫛全
 ぬらう 幕 結 たる 也 松 川 松 且吉井
 高 舞 也 本 町 筋 の 小 秋 田 角全 古 之
 登 也 森 庭 の へ 入 升 戸 の 場全 笠 雨
 夕 立 也 力 高 ち 月 斗 乃 尻全

秋 立 亦 ち 月 法 乃 也 草 鴨阿保邑 扇 山
 冬 之 ぬ ぶ 亦 枝 種 也 渡 り 鳥小林邑 文 里
 古 心 八 女 日 俣 也 老 一 の 卷 子 勇新宿早
 考 也 言 う 春 江 韻 清 一 松 雨横壁
 名 月 也 尾 花 の 極 也 是 乃 免 文 哥小串
 之 秋 也 亦 ち 物 の 糸 支 度 文 賀長根
 梅 々 也 隣 う 々 来 々 也 之 庭 閨 山馬庭
 清 み 也 庭 也 之 乃 陸 の 乃 琴 山岩井
 物 々 留 女 也 碑 也 百 合 の 卷 洲 柳全
 七 夕 也 月 也 取 乃 無 乃 香 悦 山西王井

名月や沖ふらに花流す小艇全 芦葉

龍く乃梅の自じも磨ゆ倉加野 午雞

梅咲や子鳥の聲、古くあり全 文皇

笠柳や有しに香け瓜の果伊勢守 彩掛

惣候乃後、もも也家の梅全 花隣

と食の果や新衣のきりく前橋 池鯉鮒

烟前や木の葉も舟の鳴り全 戸裁 盛賀

流流月等目やうり花の雪全 市寶

傘の寒くも折小茸小幡 うる 透竹

心るまじりも花や飛抜多小幡 魯刈

名月や箱根の湯をけひ危全 若葉

舞也如仙合ぬ花後の縁全 芳州

蒲公や沢邊には雪も流全 の春 永州

夕影也のまゝかこ此全 為んか 齋州

隙さうゝ巻示わさる全 秋の雨 東州

松もや戸柳法園月全 昼の声 羊州

兼烟や子梅のまじり全 詩百篇 客應

舞柳や巻もも折全 松の竹 父子

春のじや柳はいつて長野原 冬月 成 芦魚

源一と月夜も花の忍行田 涙とる 斗醉

煙尚う橋の額向也如或屋全四寺 芦鴨

始妻の思ひ所也峰乃松山永竹 山螢

藪也田舎も御所と深く出山童竹本

白くたの波世もや八文中上総各里 新石

まじりも持てま男色也女良花近山江戸

蕨也下流矢の通る細小政里風越後野

夕まや急流多く冷少船の食素元石州津和野

初嫁也世も持てぬ落橋全 芦洲

ふく女也日毎くの諺がま全 羨鳥

戯れに毛水のう流也斬り多共國上州高野

お筆の所もめりや下屋浦能又野止 玉原

岨崎乃石懸る月也手桃灯月峰上郷

月也目もほろも交燈の途の長白翁南部齋

入相所のあてな好也姥橋三聲

白ひ深く看やいん宗も若舟十代也改

群るもく深と積もる雪串崎氏 虎山

朝月也まひの月月人月奇友里金三洞

存るもいれ救乃力也杜鶴万壺活月舎

初方也もまて遠めり今相之友之

系橋也風の吹月月能能 素石

三勝口曾のふと二日月共潮
蒼や何處之に小堂 吏山
知意千枝と、沙きく千翠
之解法結子あき白初内由 富旭
又きや陰月も及雪跡の音 渡半
乃も磯池の底きぬの結連牛
初雪や火門口もかきり里 子也 貞陸
是物もさるる入乃落如 紅吉坊 芋玉
七夕の糸月繫也縮じうき里鶴
共しは故帳のあし杜鶴倫路

わうの雨也離てぬ與座鋪 蒼柳
初夜乃境也いつもは証鼓 龍子
玉姓の余情月も色もあ縮 蝶之
蟹塗示子銀はきき系科 院雨
取道も雪乃意也去廊下 二調
川筋也周賀乃友子音 青鳩
雨の目も鴉は白紙幟等 交鬼
狐身乃名付之也五月月 風車
楯神衣揃も程ふ土用今 共月
知るや冬もさるも蜀魂 共桃

心よた地の姿やこぼし女 花木

華や人の命さあを他 杜平

心よ授け世の灯やこぼの葉 米甫

涙を寄(馬)子居きては結わ 貞雨

ふと格とつりし

高寄

文斜の香を、あし香を午 秀木

ひしあし馬のまに山 板 平湖

夕暮のすく名は今年菊 藤巴

東雲は飛波、他し 杜亭 一之

ひし馬屋赤白のまは竹志

松影もあらうと繁し 紋の色 艶山

大深し嵐乃通ふ 枕 笠雨

引鶴乃は松 浜し 和氣 浦 重友

水車 水車 竹雨

かき赤糸石切ふし 桔槔 東里

胡麻の影も源し 夏水 雜歌

考りあは後かし 叙の渙 友之

風りいよ高し 三輪の森 芦奥

毛明し

春よは家守の言に 旅は 芳雪

一
吉井

欄干は布子やせし後の月吉井松庭

玉の露のまろき色よし吉井朝公 橋平

登りてをたうめりて高増好朱

おろりきり

清き言の日に果たり深沢松岸

物のは国ふ恨はゆるきり吉井舎牛

を因て麻のたもなりきり三宅芦文

そり

新田ふ久と付るをうん藤岡二名 湖雲

以舟乃帆は渡ふきり吉井横霞 復兒

阿毛子

尻声はせきりわら榊氏は 蒸煙菴

引あも色もく藤岡外有るよ 万壺

一片の雪もおある河州夕千鳥 扇志

驚すそへきり河州おも有十三夜 嵐睡

あは

やうと先入是ぬ藤岡おと山 稔

道法和周ふふふ和周金法和周香

海一之欲より秋の池の端 吉丹 松月

そり

冗ふす而り序ら秋乃を湖青 高寄

ふや

星舎の女月書や橋の字 朱天 習谷

いこ

末はいと縁連り空の水 八幡山 秀竹

や

吹く来る木の葉は河原の面 吉丹 松石

くぬや

葉と向んは月秋空の梅 小幡 秋空

葉は空をまもりん空の月 空崎 辛成

あし

あふくすも暑の世と涼 小幡 素牛

玉やこも又川原に 高女 星河月

川

首より葉は是原 伊勢 芳耕

粗気は是川 全 路の柳 有隣

柏の巻 八幡山 志 原翠 夜晴雨

春影乃 高寄 輝 呼雪 法 深沢 一 里鶴

後 クノ 志 深沢 里鶴

一月のちうく雲川を燈籠音笠考

天

唯を木以て積るる高八幡山東宇

難法地もめりて次予海乙山

の

己う身と海りて鳴るるを延山

海よりなるる者水鏡春且

二而なる相を来神々伊勢繁研

よ

眩るる心ざりし中高サキの巻八千春山貫

を離るる来る秋乃者而醒

今迄の傾城所恥く屏うる所壽保

結月乃るるる物々音種ゆへ音當屋

情正持落るるも才音女郎花牛羅

平ぬ

美来ぬ音同夏也音亦古小袖延山

源平も如睦音とまりぬ立甲音竹倭

下知

藤也音弟へ嫁入乃後音の切伐柯

秀雄入送れ橋音尔風音の神音其朝

切字音かきく音小方音さ句

國を合ふ水も色 社より負兩

紫昌の菊も都も九重も 大野原 亦并魚

野火来くや峰波も 前橋 下 過改

炭竈乃より煙して 秩父 豊東

紙漉は志州の字に和く 竹支

糸物も物も廿斗も 紀遊

後日の徳川が流るる 馬二尾 雨 里水

心も心も 熊本 唯夕

火のくも 山至

春の若とも 藤岡 負宿

今、むのー 嵐雪を

産を湯予、手物と云

一河共角り、色堂亦

一く蒲固平らり

亭萩と凄一に 酬和乃好らハ

跡、一、火燧

之味も 後、あ、也

夢中菴 笠翁

万物の道行の中ふこころの
まはれは源の事なり
まはれは源の事なり

蓬萊や入る 貞橋

くしくぬ柿の核

已とよ一むの巻

意を能く志ありと
いふにふと

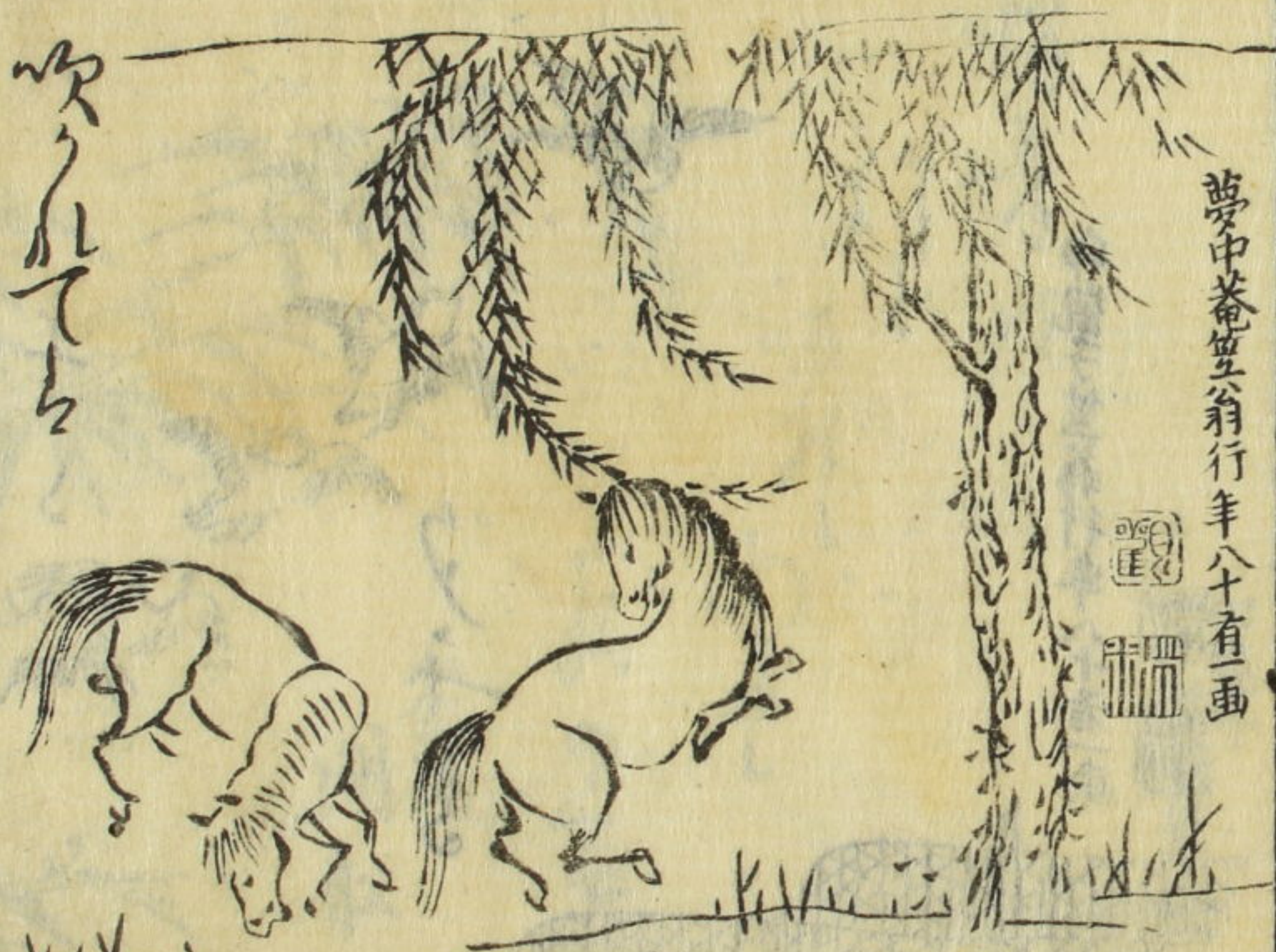
志 全

梅子の

新

唾の免

夢中菴笠翁行年八十有画



吹くはてら

好するはるる

柳一哉

上良崎
好和



垣と顔

松鶴

雪の隣

指の



四季

佐野

桃江齋

船の灯乃く春の月 杜川

一掬ひ月もとれぬ 法水

後法齋の血書 出雲

万葉集の 法水

全

これこそ是も流れたる 春一徳

権の志緒 月道

風ハハ 豆腐の 秋音

大原の火子 火燧

全

志強也 冥法梅の系暗許止 吳周
韓或の陰也 冥法梅の給也
其原也 冥法梅も 月令書
并ふも 冥法梅と 冥法梅

全

石燈籠 冥法梅と 冥法梅 貞
一は 冥法梅 冥法梅 冥法梅
冥法梅 冥法梅 冥法梅 冥法梅
冥法梅 冥法梅 冥法梅 冥法梅
冥法梅 冥法梅 冥法梅 冥法梅

全

子し女ハ跡ハ心也 冥法梅 冥法梅 貞國
子ハ抱之入の静也 冥法梅 冥法梅
冥法梅 冥法梅 冥法梅 冥法梅
冥法梅 冥法梅 冥法梅 冥法梅

全

冥法梅 冥法梅 冥法梅 冥法梅
冥法梅 冥法梅 冥法梅 冥法梅
冥法梅 冥法梅 冥法梅 冥法梅
冥法梅 冥法梅 冥法梅 冥法梅

冥法梅

全

日めく蛤賦新以予常菊
童子遊菊のあそびあそび
あそびあそびあそびあそび
あそびあそびあそびあそび

全

あそびあそびあそびあそび
あそびあそびあそびあそび
あそびあそびあそびあそび
あそびあそびあそびあそび
あそびあそびあそびあそび
あそびあそびあそびあそび
あそびあそびあそびあそび
あそびあそびあそびあそび

全

上州藤岡

あそびあそびあそびあそび
あそびあそびあそびあそび
あそびあそびあそびあそび
あそびあそびあそびあそび
あそびあそびあそびあそび
あそびあそびあそびあそび
あそびあそびあそびあそび
あそびあそびあそびあそび

全

あそびあそびあそびあそび
あそびあそびあそびあそび
あそびあそびあそびあそび
あそびあそびあそびあそび
あそびあそびあそびあそび
あそびあそびあそびあそび
あそびあそびあそびあそび
あそびあそびあそびあそび

全

雲霞柏をるゝ風乃青全貞隣

関の戸を燈は消えて杜鵑

秋の香を思ふも色はくも

思ふは雲ハあゝの西海江

全

秋操也一羽鴉乃くわの岸上州小幡貞所

吉原ハあゝ淋れた源す那

こゝろの不孝然一玉原

望とくも也石月如わり下河原

全

全下大塚

川者へ遊す地り花の山周賀

筆巻角振神もつら由柱唄

編はまのさしと思きらお神小

汐子も舟へつらぬり一瀬

全

全藤岡

ゆ春が川に地も夜のはち全藤岡若文

白くと曉さう一蓮の巻

淋しと色蓮はくもさう新

物言のき思は山を新し

全

上州藤岡

松入野山老木朽る花曇 芦波
淋一宵配て砂地うんこ音
鈴舌只老久也わぬ後の月
馬士地唄原水流り枯野川

全

全八幡山

花の匂い志の心何事もさへ良 邑山
ゆき月六何らゆらん雪舞
ゆきもあまもよき世の海
ゆきもあまもよき世の海

全

南藤亭

橋小群片女飛鳥山 芦相
ゆきもあまもよき世の海
夕日影松八招の音うら
新うら治はるま地も音

全

南見庵

ま棒は汝も春の河へ 芦寛
草木の葉表見きり異なり
秋きてゆきもよき世の海
ゆきもあまもよき世の海

全

お世共と見申さるるむ見し阿州魚干

暑くわくくくやせの峰

法の香米なる法なる月あふ

雪の日は晴る鴨ふも一合

全

砕、神と志は一志は梅の春 貞玉

橋へ尻は是なる面柱の

釣糸の巻と星乃別まの

祀書や世のよ一はすく

12



一ツ家の

あゝ

あゝ

枯野

笠翁画



矢田 貞鶴



牛の子や

道より此は

君云

貞南

白布



巴雲画

子

夕

牡

山

Handwritten text in the right margin, including the characters '手' and '下'.



松乙

蛙うな

さしき

静

波

か

三物

青くもたぬ葉と詠と紅葉川 負里 拾菴甫

入日ハ山月ハ波さる

若君の清肩ハ身ハ穂悴

全

いささぬくもたぬ行打声 一祖堂 若先改 若長

秋分はのる鞠のけき清

夜と昼ハ継有る清も清く

全

秋懶まの志也夜河の杜鶴波光

麻酒ハ癖ハ成ハ涼ハ以

水閣の月ハ君子法也と帯乙

全

可なり橋下志は後志月貞竹

新酒の破乃都て以て

一瓶の酒海に流すは山是く

全

上列橋山

此の酒を會生に以て麦畑桐船

詩と酒を余欲は頼杖

水と日本茶人の志と知る

全

隠居乃て淋しや藤 崖 松花

地の色を平かむ夕老

琴の曲も舌乃て出る名の日天

全

平斗下たるは我地志酒 芦雁

竹葱贈新舟かいて

昔の志を 密通は片巻る

全

山家のはわ初也 初意月 弘山

新は着る月た新冷舌

名茶屋の秋は酒居と知り者

全

若くは曲の跡を初也 芦笙

使んとは軒木情地

月と待詠向端政中も帯引

は

全

二人乗入りしり、飲及新茶、桐葉

梅、梅、梅、梅、梅、梅、梅、梅

て、て、て、て、て、て、て、て

全

舟、舟、舟、舟、舟、舟、舟、舟

窓、窓、窓、窓、窓、窓、窓、窓

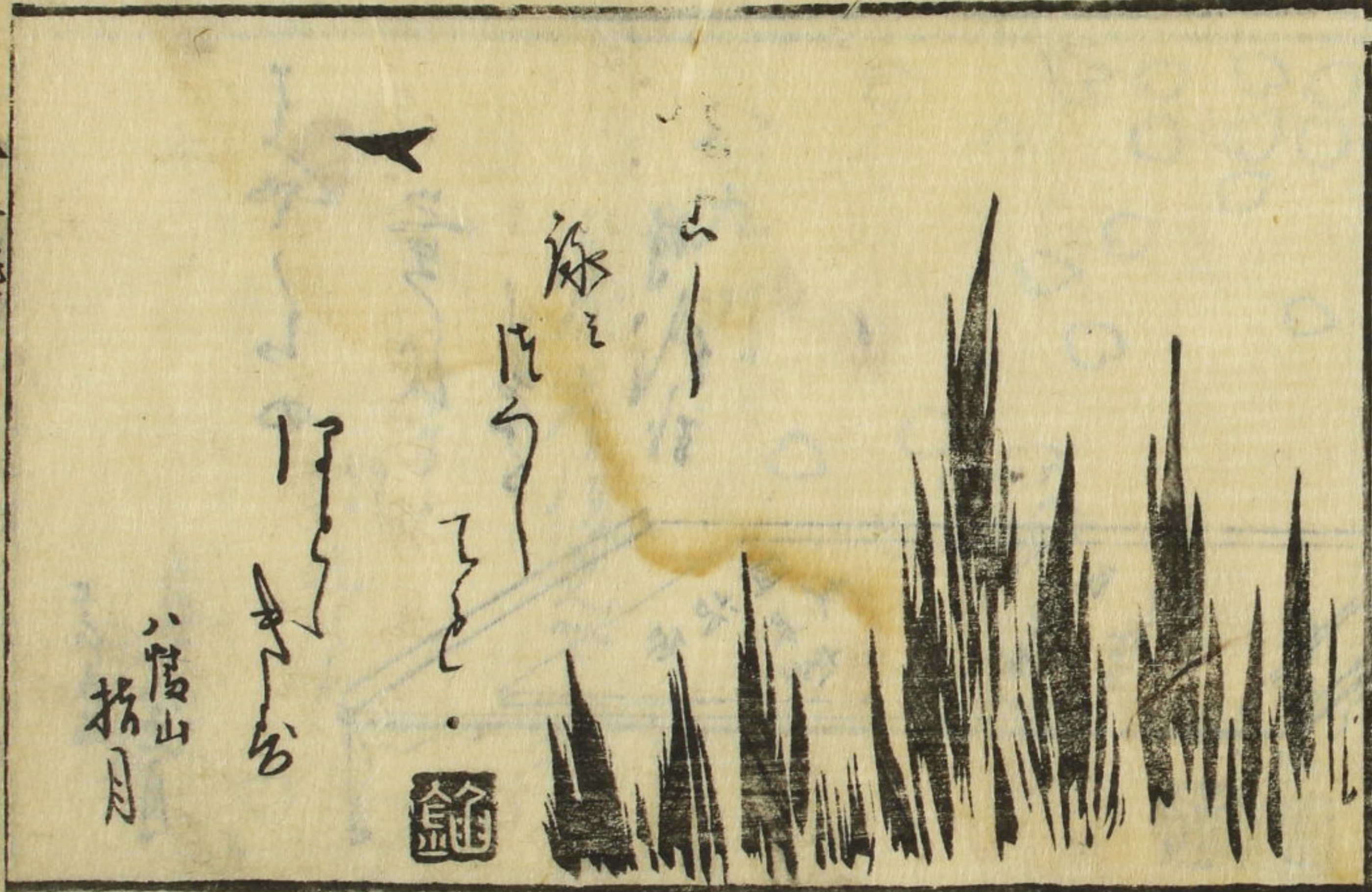
沖、沖、沖、沖、沖、沖、沖、沖

全

舟と滑着船の女が、舟、舟、舟、舟

梅、梅、梅、梅、梅、梅、梅、梅

名、名、名、名、名、名、名、名



鮎

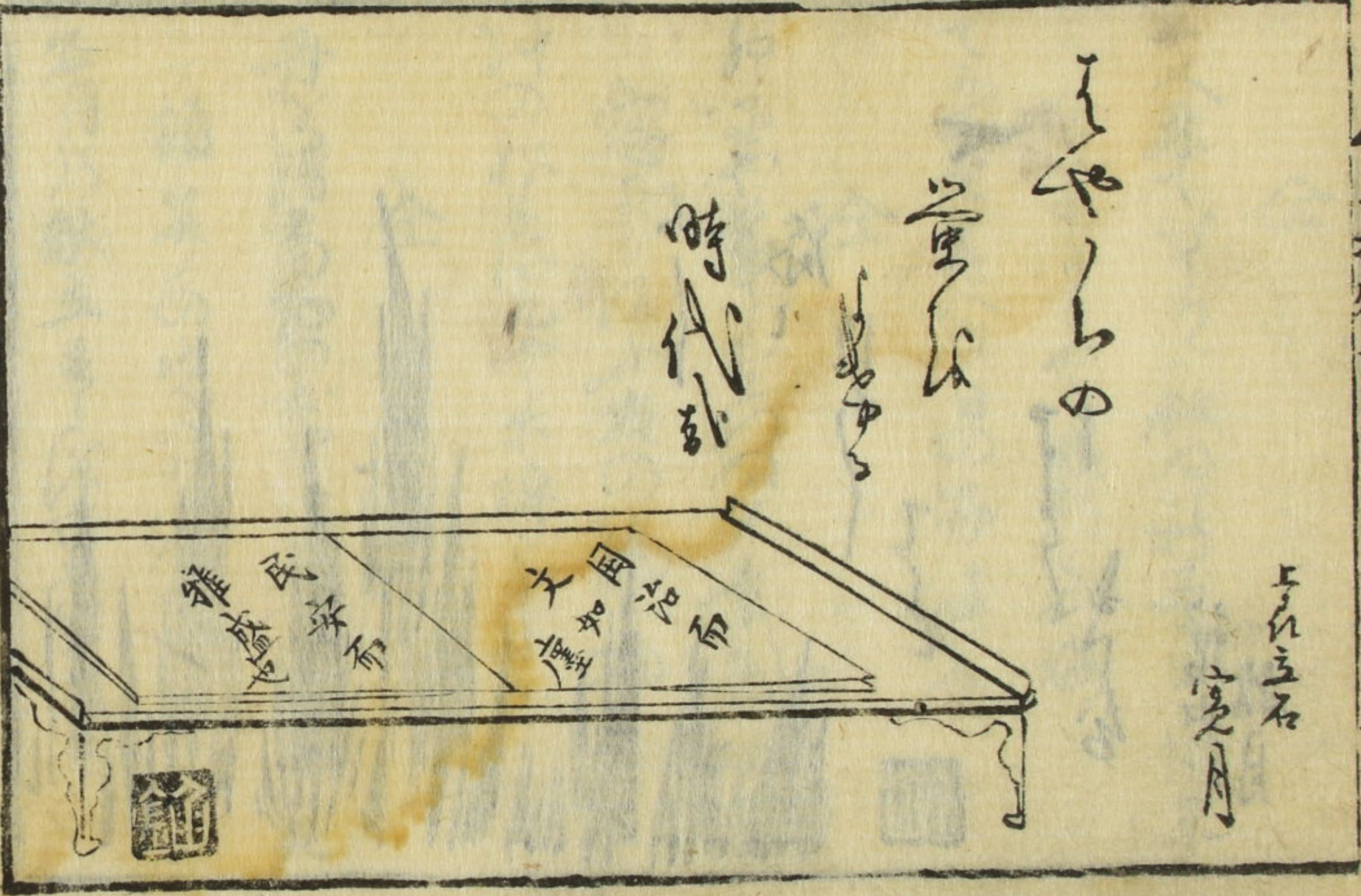
舟

八景山
折月

上石三石

寛月

時代



上石三石
寛月

再買

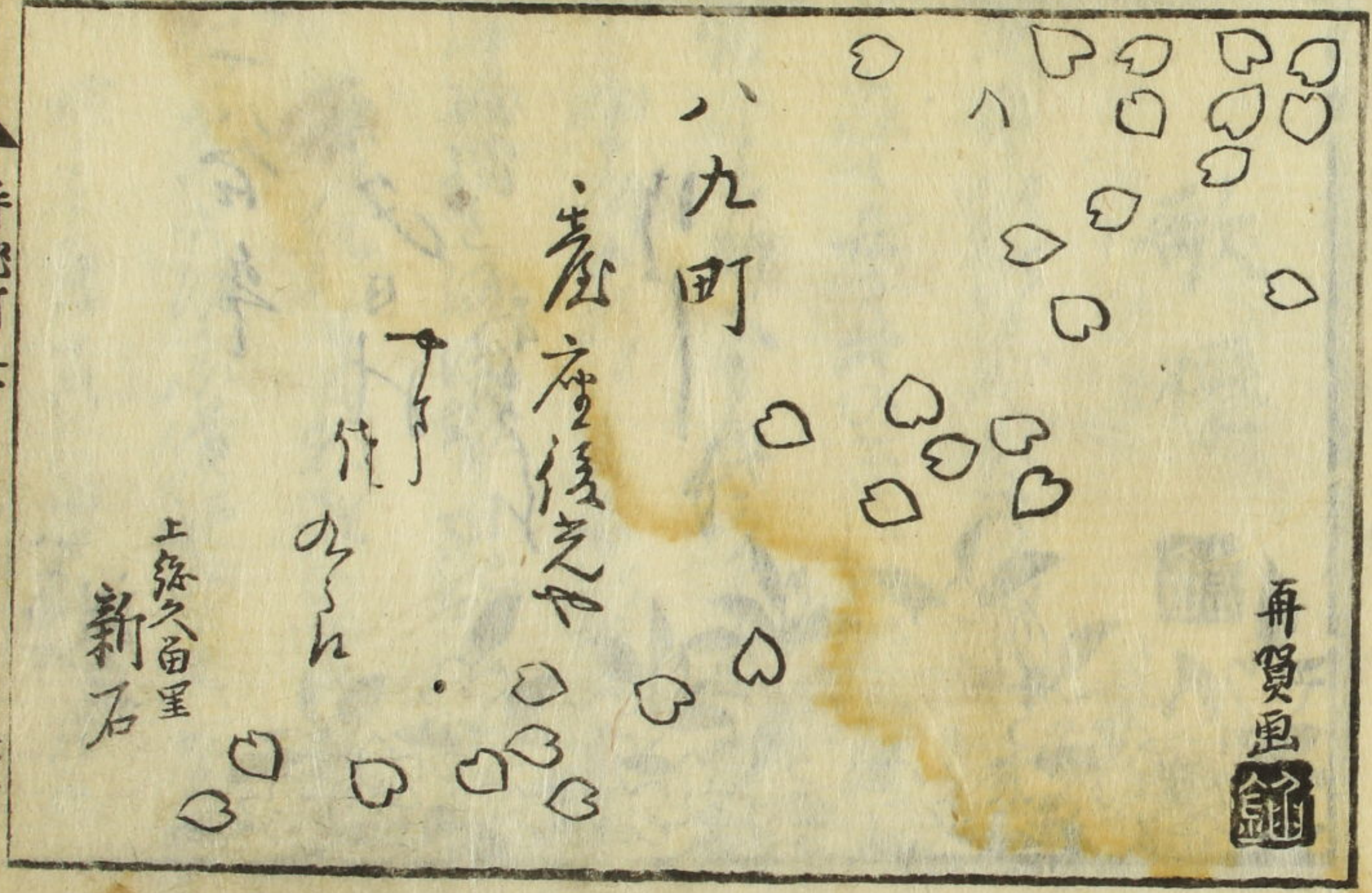
九町

産産後光也

上石三石
新石

手紙町下

九一



一谷

夕日

あま

し

八幡山
湖山嶺



歌僊

風志

思源此はるがた青田哉

森入岳の外の角に和帳貞山

常仙

有佐

淨瑠璃毛浴衣や世世の月白屋

執筆

家父の海心僧の禿骨光り山

世丹も名をた笛志一人志

手紙訂

下

かき事へては既未西行 有代
かかたお泉乃洞あり 有代
日暮は猶、初まらと孫可成 有代
拍の个々音かゝり風 有代
山奥の貴松樹も如字活里 有代
玉斗の如く婆の孫物 有代
色はゆいも根も松も雪は 有代
松は夢醒る静屋持も逢 有代
すかむ段家捌き塔の下 有代
月代のゆくまはり 有代

^余 圃浩の心よりうかば生れ 有代
二人圃圃小託色殿の石 有代
有きまはるも孫も娘の道 有代
先主出て難き月こそ 有代
深川も思ひまき、波の奥 有代
結了乃顔も終日海邊 有代
ちやんと鳴渡とすまひぬ 有代
有て韓紙とぬれ相接 有代
埃濁もわびて何古うも 有代
埃は借り合望田千軒 有代

月の名も女土決くの風有る志
 味りありふと蟬を驚かし
 春醒るゝま辰の標しぬ春 屋
 人し控えぬ不乃筒袖 折代
 香爐も是道しの身老なり 春心
 次身月京法舞 下籠 春志
 夢の片も味香と向も花の乃 春心
 辨處へく己 屋
 去乃瀧中の

奇仙

ニツニツゆくと熱味の標し友里
 秋冬寒や暁乃雲 芦簾
 翻きあも友と隣のはるく 若邑
 陰陽しと村の子、奇貞国
 竹風舟のまて月とわん 若友
 知くし斗相飲くゝの 春心
 振向も志感敵へ能通し 春心
 女乃志の銀の折引 若邑

子城天窓へ重く十丈の
以柳花尻の牛ふり
之の啼くもたあふは
料と角く入る者か拂
冊親の気結頼ふ第
憲とく経路大谷
地りく食つ蒸の
地まらりも指り
月夜のはらりめ
之の清いあり古

孝察の朝もは
去急町へ籠る
はくを思は
是日終り
誰夏の果う
波面り
多法由亭
河ま
法衣の梅
五日は月乃

手紙

北九

祠の事し廻てなる事書出 其後
 向の子破文の葉の事あり
 骨料食のむせりてはくはる
 寺とて能く由り編福 其色
 新造紙漉の灯乃新造あり
 酒の細い庵の神 其後
 じききりの恨り伊勢曆 其色
 ゆるや
 是
 ありて

奇仙

水仙の又昔が尻系抄汁 徳
 料理乃修造中初と難兼其翁
 不物法雨甚所へ持込て 全
 角力と習ふ小細市の意地一法
 不はんに改せしむ善の月
 野分の埃乃松量其れ 其色
 色も月がまの末危向小膳
 溝は除家証表 魂一法

如人よりや赤子の垂の口車
 風日こくれ油の縁音 若氣
 せせせせせせせせせせせ
 せせせせせせせせせせせ
 春しぬく乃るはせあ若氣
 後宮の底に燈の百とけ
 秋の部舟入くは一海
 深幽乃若勢江出る峰の舟
 秋も舟若かりる人四若氣

碓氷の封疆て踊乃曲くは
 忽くや、顔の道具くは一海
 河舟のびくは入はは
 珠藻を埒に飽る卑雨若氣
 星乃舟をさめぬの欠一海
 世渡のふんははははは
 確據の系乃未播
 活京の一階くはははは
 昔も歌やあはははは

月雪不恒ささひ照り生
 園煙暮殿ゆく風の音は響一
 松よまな泣き梅の梓弓
 的は心もたぬに因兩
 鳥の羽はけはかきかき合者
 走る梅の影は意なきが一
 秋くふ七つ下りおるの山
 琴柏 果鳥
 くはいて

歌仙

上州藤岡連

松の冬青もささひ照る月 貞川
 跡も残る等には 雁 貞賀
 玉の珠の首も信出まは 貞陸
 舟戸也以のさし所へ 貞隣
 けさ後々興乃出の都は 貞宿
 鶴と喚く通をむく大 西湖
 縁目すり合筆はさるる 貞盛
 舟の烟は橋へ清くは 湖雲

上州藤岡連

借を浦をくぬ料程さくは色芦汝
味一以各口入封切の芦藪
物味し流津浦を秋安居湖藪
あこく野ひ呵くひま山瑤
揚先子陳皮味も川原 霍山
破ここはさんの大各東川
る好の増落と吹く音是に且山
日ハるふと泊海会 周賀
浦風ふぬぬきの事七巻 芦夕
毎の中うり言はれ有 文里

^余去月一板握りてあつて 芦藪
肥之百ハ母乃秋之 岩陰
降おふ水たす。猫とつれり 湖
あまの妙日道一松有 岩
市やふるとして隣へ因西 石湖
志上たすとて修勢へ抜る 石山
内神の本跡氣の河にた 石山
後者評義へ海掛と 芦汝
石堂計二階へ仕着ふおぬ 園原
奇藤が雪に別(字)の 岩門

伊勢赤くくく月夜 辛月 望遠
清世揚子の涙 梅子 木 湯船
お水もひり雨 乾く高砂子 山 砂
柳子 赤神代の鐘 角 義 若女
下たと見え 三徳 赤い 形も 文句
尋ね 赤い と思へ 赤い 山
くくく 牛も 繫げ 市の花 只
赤田方 只
えり
揚子
まーり

哥 儂

上州 菅 連

夜も 赤い 葉 赤い 山 白笠
帷子 赤い 破 破 破 の 机 白 山
丸合 羽 兼 赤い 赤い 赤い 好 和
菅 所 赤い 赤い 赤い 赤い 松 仙
三月 赤い 赤い 赤い 赤い 里 川
赤い 赤い 赤い 赤い 赤い 赤い 筆
秋 赤い 赤い 赤い 赤い 赤い 赤い 水
仕 赤い 赤い 赤い 赤い 赤い 赤い 水

手 札 訂 正

川ありと紅雲の霞の松鳥
蛸じく町の音もくくく 里霍
能道示木履とを以て自揚琴山
走るる新油の流し 朔柳
おくく口流りる月音 松心
虫物ふかく虫と掃り 好知
以紙と告る 平戸の夜が城 望望
松心湯治のやうに入 相巻
お盛危南浮くと連おけ 了如
静く是日は音の声 松心

七人の大お破の来る音 松心
お敬媛乃顔へ初々 松鳥
忠すくふ豊後くりの自強を 朔柳
さ何くく村うくくして横瀬あり
一間は凍りさ波の来へ 了如
角とつまはきこの音 松心
瀧急と涌くた波おの音 好夕
夕暮こすお花の音 了如
お木音の音ある音 桐翠
うみ音の瀧音の音 了如

條の来て結き江言舞ひ了意
 ものと思へん程の形取測り
 舞念う我をうに滑離れ相愛
 伊勢歌へ入る身玉及楯了意
 九条赤藤と搜及人をも立測拂
 尚と子供返事と文と松山
 是夜丹花の河川はふる合松島
 佐保姫
 配利渡須
 短冊

歌仙

白素の廻りそとと名取り 貞鶴
 鶺鴒乃すくむ水香の香 蘆翁
 吹く此方未だ秋も出ん 貞橘
 清もゆらに揺る船唄 貞國
 整河決りやうもはらまじ 貞雨
 屋振骨入のくく 貞玉
 杉柱と其波の角ぞ佛もも 貞翁
 童子はとく正ふと清 貞翁

大急の通に跡より来る市
千両箱の棒屋に
物老月形御持はるる
河津より向う後
来る道の運者より
二階店浦へ上り
夫さあむれは
口と吸き入る
疾一さうに馬の
中へ半の
意

切へ松書も
盤白く
うら園女
娘の
うら園女
乞食
十分
取物婆

寶物のは代前と池に引れ
 妙薬く神代に通る東金
 早乙女の一人に來る神傳
 魁もあがりて上る神鳴
 檀方の儀を述べて寺の
 地を去る日、法の名斗
 赤毛と二文、波の巻の國

春宵

かーきて

男穂

昼寐

まぬ



美紀也

る

進

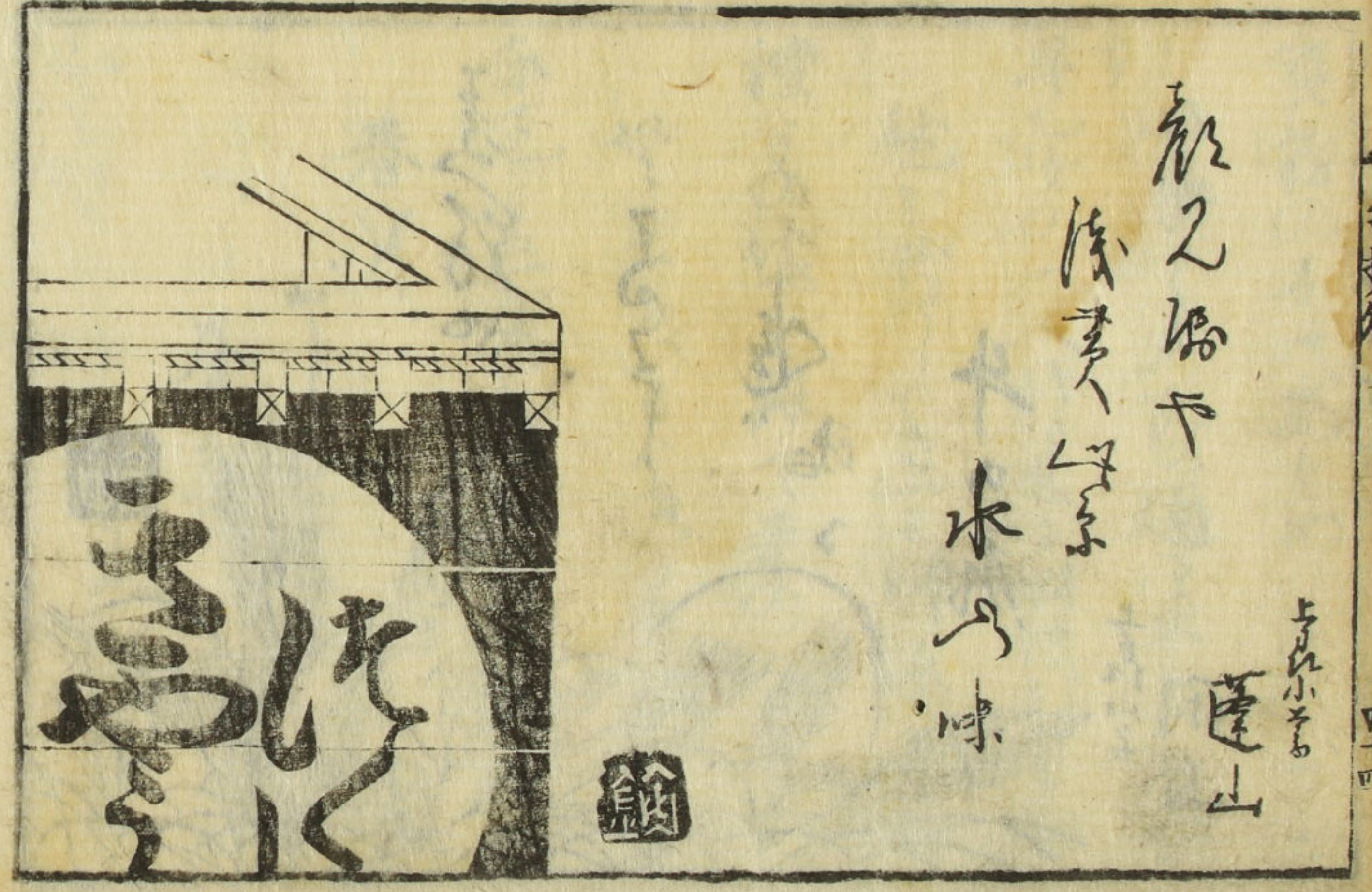
牛の尾



上原山名

閑山

非光下



鹿はおけく半可も息又耕
ぬき平近都さうり杜鰐 兎里
寐所へて帽牛さ木妻
るの音發ハ志をけく孝の端 兎里
う活志わてうさ入相又耕
舟斗塵病とけく急共の喪 木妻
夜月も月怖以首無垢の袖 兎里
月新月花来此後むじし 木妻
燕燕於小
文耕

柿川を

半歌仙

氣力いぬ桃也山侍良 白菊
尻びをるに若菜の上 彦翁
庭作り大工くそ百千鳥
餅うらく強餅小免 望月
流りて月夜掛り西蓮河
雨も川雪とがう明あふ 若菜
若菜の蒼さあゆみ秋と加
けあみいりも章とけう 望月
志るいの皮籠結く 望月

里見扇を此拂物也 若氣
 市道を喧嘩乃中ふ外、癡
 長生坊、奇異子人、
 松杉を落す平月、浩然と
 河崎吉原油子合、
 別渡、推免殿、
 あの女と引毛、
 若小物乃尾、
 こみ川、
 おり、
 若氣

半歌仙

然世も水車やありぬ月雨 若春
 智と虫と海とく幅幅 若翁
 あり市の子音物子脱
 箕輪やすの程より吹巻 若春
 三月尔取合は小盃
 相枝乃喧嘩の陣 若翁
 淋し法也と源也
 若翁
 人黄の雪ははく人 若春

半歌仙

五里月結き紅瘧の思發
 文と見る目、後とほきく世
 不没、お丹も吹浪氣まき
 銅卯尔孝の湯道具とむの山
 善好の月雨の然も
 う川うると香と助る射枕
 祿宣の杖はくまの燈台
 舟舟は丹もむの松声
 津製乃そと
 夕夕夕 結電

半奇仙

池の心波く通る情鈴下 虎山
 神をこすえ輝ふ妙舟 貞山
 月も花大暮りまき 舟
 麴の香結きい待 合錦山
 舟もかへ乃拍子もまき 純圓山
 志く浪亦目のついで 寺負雨
 舟もく和尚舟結きまき 山
 竹雲とくさる人運老いん 舟 序山
 大名に奉りまき川へ舟より 舟山

白くも那くは子代も松
 若くも若く者納め反有馬山
 又江洲も是もす所岸山
 又相も志へくの地もはたふ
 此もは松もむも夕月松
 鴻の巻もきくは遠て目もは
 此もは松もむも夕月松
 若くも若く者納め反有馬山
 又江洲も是もす所岸山
 又相も志へくの地もはたふ
 此もは松もむも夕月松

半哥仙

花も今世も流るる梅の枝
 新海もより大極飛く
 帆も船もはの枝もり
 家も中もく相舟の語
 すもらと一掃満て
 月も是の秋もはたの首
 連て是も紙も子も
 鯨も花の嘘もはの指
 此もは松もむも夕月松

打角切く如く又深き海
 猶ほき秋風の神くやと川
 徳舟食所花柳とくは松
 ちん是る富土乃隣の青きまら
 菴と建かんと月と青に 若松
 妙戸城の水毎皆志家の前
 和之の玉座や此に快倉 紫松
 舟車へ一枝のまら松の山 若松
 へは色 福壽乃 紫松
 結法
 了るま

半歌仙

夕雨改

徳無暮の面へ丸雪川 米成
 うき渡りよ松の風
 樓乃酒く酒へ舌あき
 左力持のよは脂ころく
 ひととまへ花越月の際
 分は社丹字昔の有
 遊の舟やもはくや浪る局
 何さ出り舟志中
 粒流の敷布が野目行舟

為能言者へ解意
味亦新む差菜の玉
古い巻末成てゆらん
本陳江戶家の幕と打
る土丹たて新金沢の道
漢堂腰に披く涼も月
味香月焚やう賑や事
巻勢は帳の向より景
年一白りて
通子豫父入

津島心

百姓の夕飯阿賀月見林氏素勇
やうの河津の鳴子持香
子線うれ十分帆とよて
燈心巻好とく乃大抱
雪丸の三舛の紋張頼と
柳も土目不月と等同
除島の内へ巻く時節も
乳母ふあのも岩橋の巻
味との解と定ず腕の積

燈明新ふ燈と信ある

東山と廿二の燈の雨の内

生かす年より石町の燈

初燈小別と書く欠りの

辰松風小味が結す

油あふ余りをもていかに

為る燈別る地差入りの

ふふふふふふふふふふ

小袖 道 芝

暑く

牛哥仙

松原氏

貞州

初層の曇り濁り也鳩の池

月夜に松く

此のうらみ浩々青糸雨の雲

かさくもくを繁まむく

お丸十八町乃峰の雲

盪平すし家言の美所

ひき捨てたか柏を夕風

うんく通子法の煙火

海国は夜かきく一人がすく

一乃とあり一茶飯の世中
 八鳥ハ聖徳ヲ譽ク古の
 文ノ中ハ法巻の和香
 神乃とヤハ世との松花は
 琴の之ノ一之ノ是ノ物
 之取人志は一枚焼却
 孕ノ下共減等生の霜
 華と旭月其朝支ノ危
 貞屋
 袖那 相識
 貞山

其の
 一
 一

半歌仙

上州小幡

斧ノ切リも来。秋の寒ハ 芦門
 底とこくは 穀法文ハ 貞山
 向小推押替人色 梅歌人 貞洲
 山と誠ハく 津島所 貞門
 早らと等も 孕ノ下共 秋空
 一乃とあり一茶飯の世中
 八鳥ハ聖徳ヲ譽ク古の
 文ノ中ハ法巻の和香
 神乃とヤハ世との松花は
 琴の之ノ一之ノ是ノ物
 之取人志は一枚焼却
 孕ノ下共減等生の霜
 華と旭月其朝支ノ危
 貞屋
 袖那 相識
 貞山

土向の柳よは涼たゆりき
 中龍車に持入事ゆき縹と抱
 西角ん粉候は道師の口癖
 法印の素すけは松くき
 ぬいぬい山の暮を夜節
 一哲有りささよのどき声
 思ひとまへ人志破碇
 挿のむらさきも神は振合
 受男 おんお
 いん
 せい

半歌仙

上馬山名
菊水堂連

際し泊る玉鴉は数も海 芦橋
こゝろをうらみたるの羽子泥懸 菊要
 引せらるる成奇帆の是へ人 水荷
 素と入るる下河以と 水巴
 二三里はまきふのぬき月秋 水延
蒼波志倉と指のむき出来 水龜
大門と向くは秋の宮中 菊籠
 酒乃るるに口舌をくま 水羽
 恨と向わらぬ扱へきこり 菊山

牛の森と云ふ最北の傍より
 婦人衣冠をとり格普請の
 行と云く程後、松理子等
 望み著流の心は露属に
 是れやると又も、兼て
 續帯も望み、大なり、
 如るへ書表に名を相伴
 花の爲に、海乃て、
 閑山



三好宗業





体真

可風

子

元

可風

可風

紅牡丹

首尾

接啼く枕淋くは露原に臥牛

二十本

定まらぬ弱くはつ園の戸 茅草

酒の通等流打ふり天

光の心通流くはの舎の牛

晴る眉も毛もはる鳥帽遠

洪園の心もはる鳥帽遠

木男の深も終はる鳥帽

木も病勢志の健く川牛

河堂亦はる鳥帽遠

水歌志の心もはる鳥帽

小山の奥も懸小巻ここ
船も舟と伸まうる舟師生

裏白

新藤子目か反白と
白く

洪柿香

舞乃富貴や世はるる海 貞至
情恰如國の秋と云の秋 若翁
魚を食え月夜靡能去わく 貞屋
浪もも強のわく 跡附湖舩
石帯小古現の路も理屋は 若翁
こもた凡く世命なりわく 貞
先陣は破く後陣は入る 浪紅
ふ代美代目較乃蒲陣 貞屋

表白

東氏

星移り琴之絃も常盤木 徳山
浅はるる明生も辯天
茶坊直に大事の文と拾はる
猫乃梅も吾子も多の如
出は又若く浪も帆も如
道有揮ゆ家も目も如
松栢も留る反玉も若月
為甚く身が物まの蘭
鉄より山述懐も生つる

下りの野鴨送るふり
田舎の流るゝ流るゝ
知佐大八のまゝの鳴り
つたて半町斗り見景
谷津堰も西のり内

四季

星川
平川吹く霞ふむる箱根山 貞至
春を抜くはよりこの峰
花雪や相い池の夜ゆ度
白食う先知の川小坂内角

六

以座の雲流心也荅大根貞賀
湖葉の欠縮分梨る也
死てこい仙尊を死ると梅屋
仲也や入江戸に掛る鶴下

流し撥るふい流の枯井と也
春に人参利と初春に貞屋
鶴也己うまは梅屋

題 夢の夜は雨

ふよふよと夢に披る雪下り貞山

井の巻を引く

見よ永に外ふりて是も是も

強き如く石より登り極く

琴糸細の上戸好く落の舞

又も也も中もさうはうの也

提筆也十二望人の腕もさ

水心子居所の才た恨るわ

奉納

鼻小足ふ薄い袖も梅の花

今年桃の花は

いささか小、譲の丁緒

を師貞山、氏教子望

集、採、採、採、集世の

採、採、採、ひく、ひ、河、原

採、抄、之、同、様、末、つ、道

或、は、雲、子、ろ、川、道

紫雲山志道り身
紫雲山の紫雲子千種
社道家子外法外友
鬼の荒州志道り身
志道り身孫袴の志道り
知り紫雲の志道り身
紫雲の洞花志道り身

乞史持子知事志道り
紫雲の志道り身
紫雲の志道り身
紫雲の志道り身
紫雲の志道り身
紫雲の志道り身
紫雲の志道り身
紫雲の志道り身
紫雲の志道り身
紫雲の志道り身

手打燈之字
若丸金之趣不孝

相河洞之在酸

延享二の也

し世桐秋



前央其兼与今手
挑灯者以便雨行
夜步焉然則又憾
無合羽也後作書
而問足之則山答
云予為書也只童
李傘雨灯暗而不
率於行路言也至
其合羽者各宜在
勉強矣予以爰猶
識謂李則在深其

中兵有祿豈何德無
合羽也只勉強而得
骨誓則於此道無惡
略也

負賀跋



手挑灯下卷終

蘆翁藏板

日本橋南町目

須原屋茂兵衛梓

俳諧目錄 千鍾房藏

依禮手挑燈 初心誓古 全三冊

同 小名兒 四季調考抄中 一折

同 道志 四季調考 一折

同 江戸筏 一冊

同 十吟子 一冊

同 雪比鏡 四季調考 二冊

同 加乃友 天目唐委佳編 三冊

同 落葉合 一冊

依禮 相作り
七初言
書中居某
二冊

同 花あんせ 日 一冊

同 つるいち 日 一冊

同 未素記 日 一冊

同 繁第 日宗祇書作集註 一冊

同 同 日 一冊

同 同 日 一冊

同 同 日 一冊

同 同 日 一冊



